

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

計算, 記述, 論述, 選択, 描図

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

分量・難易ともに増加し, 時間的余裕はない。

出題の特徴

計算の途中過程を書かせる問題が出題された。

描図問題が出題された。

その他トピックス

従来どおり化学平衡に関する内容が多かった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 計算	(a) 無機, 電気分解 (b) 気相平衡	化学	(a) 金属の推定, 硝酸銀水溶液の電気分解に関する内容である。 (b) ヨウ化水素の分解に関する内容である。問5は分圧から計算することもできる。	標準
II	計算 選択 記述 描図 論述	(a) 電離平衡 (b) 電気泳動	化学	(a) サリチル酸の電離平衡に関する内容である。サリチル酸と <i>m</i> -ヒドロキシ安息香酸の酸の強さの違いについての論述も出題されている。 (b) 弱酸, サリチル酸の電気泳動に関する内容である。	やや難
III	記述 論述	(a) 脂肪族化合物 (b) 芳香族化合物	化学	(a) 脂肪族化合物の構造決定に関する内容である。 (b) 芳香族エーテルの構造決定と異性体に関する内容である。	標準
IV	記述 選択 論述	(a) 糖 (b) アミノ酸, ペプチド	化学	(a) 糖などを推定する内容である。 (b) 環状ペプチドの性質に関する内容である。アミノ酸の光学異性体に関する知識も問われている。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 化学平衡に関する学習は深めておくこと。
3. 論述問題の対策には, 平素から書く練習をしておくこと。
4. 実験に対する探究的な姿勢も養っておくこと。
5. 問題演習を十分に行っておくこと。